

緑林拾遺

「神戸女学院」と呼ばれて百年

一八七五年に神戸山本通にアメリカン・ボードの婦人宣教師が開いた女子のための寄宿学校は、やがて「神戸英和女学校」と名のり、一八九四年に「神戸女学院」と改称した。ちょうど百年前のことになる。歴代校長粉骨砕心の盡力により女学校として充実伸長したこの学校が更に高度の女子教育の実現をのぞんでカレッジ設置を目論見、教科課程の改訂、教育設備の整備に努めつつある様は、宣教師文書近來の訳註に御覧いただいていることであるが、その過程での一大イヴェントがこの改称であった。この年三月、音楽館、理化学館兩棟の捧堂式にあたり、校名をKobe College と改めたことがソール書簡に記されている。同時に学院歌も制定された。「音楽科」設置に備え独立の校舎を得て百年目、音楽学部今

年の定期演奏会の演目が四年に一度の「メサイア」であったことは、キリストによって立つ学院の記念祝祭としても、時に叶って美しいことであった。しかも、その開幕を告げる楽の音が学院歌の演奏であったことは、この催しを一入興あるものとした。

しかし、年明けて間もなく、この地域を見舞った大震災は、創立一一九年、岡田山に移って六一年のこの学院の美しいキャンパスにも甚大な被害を及ぼした。倒壊乃至は取り壊しを余儀なくされた建物の数のうちには、当史料室が十年余りお世話になったグリーンウッド館も含まれて、壁土や種々の破片に埋もれた史料類を総務関係の男子職員方がほりまみれになるも嫌わず救出して下さった後、二月二十一日にその姿を消した。本欄に冠した「緑林」の語も空しくなったが、史料室の仕事は仮設研究棟の一隅で再開されることになる。安否をお気遣い下さった皆様方に感謝しつつ…。

一九九五年三月三日

若山晴子 記